

新生だより

地域の皆さんに向けて新生病院グループの「いま」を発信しています。

2021年3月21日発行 発行人：特定医療法人新生病院 理事長 渋澤 一郎



患者さん・ご家族に必要な制度やサービスを提案し、連携医療機関等を繋ぐコーディネーター的な役割を果たしているのが「地域連携室」です。医療と福祉の両面からサポートし、地域で安心して暮らして頂けるお手伝いをしています。

新生病院は、連携医療機関等（専門性の高い治療や手術を提供する急性期病院・日頃の健康管理を担う地域のかかりつけ医、退院後の生活を支える介護関連事業所）及び行政機関と連携しながら「在宅療養支援病院」として地域を支えています。

地域と病院を繋ぐ地域連携室

患者さん・ご家族に必要な制度やサービスを提案し、連携医療機関等を繋ぐコーディネーター的な役割を果たしているのが「地域連携室」です。医療と福祉の両面からサポートし、地域で安心して暮らして頂けるお手伝いをしています。

地域と病院の架け橋を作る地域連携室

送って頂けるよう調整を行う「後方連携支援」です。患者さん・ご家族が抱える療養と生活に関わる様々な課題について、その解決を図るべく地域の医療・介護サービスへの橋渡しを行います。

前方連携支援の対象となるのは、急性期病院で必要な手術・治療を終え、在宅復帰に向け集中的なりハビリが必要な方、かかりつけ医の外来での治療を継続されている中で、症状が急変され当院への入院が必要となられた方等です。

後方連携支援は、当院に入院されている患者さんがご自宅等での生活に復帰されるにあたって必要な調整が中心となります。ケアマネジャーや、その他在宅での療養や生活を支える専門職と情報共有をしながら、その患者さん毎に必要な生活環境を整えるお手伝いをしていきます。自宅への退院が困難な場合には、介護保険施設等の入所調整を行います。

入院にあたってのサポート（前方連携支援）

- 他院からの紹介患者さんの受診、入・転院の調整
- 他医療機関等との情報連携



退院にあたってのサポート（後方連携支援）

- 行政機関と連携し介護保険や福祉制度などのご案内
- 退院後の在宅医療へのコーディネート
- 介護関連事業所との情報連携

【地域連携室】☎026・247・2033(代表)



治療に専念できるよう
患者さんご家族をサポート
地域連携室 医療福祉相談課
課長 加瀬 直美

入院をきっかけに、今まで何事もなく過ぎていた生活が一変し、経済的負担の心配、就労の継続、療養環境や介護サービスの選択などたくさんの課題に直面されます。大きな不安を抱える患者さんご家族が安心して治療に専念できるよう、入院・転院のお手続きや社会制度利用のご提案をしながら、生活のご相談に対応させていただきます。

患者さん・ご家族を支える
医療福祉相談員の存在

地域連携室の中心として、これらの支援を行っているのが医療福祉相談員（社会福祉士）です。当院には4名の医療福祉相談員がおり、医師や看護師をはじめとする病院内スタッフや院外の関係機関と連携・調整を図りながら、患者さんご家族を取り巻く課題の解決に向けた支援を行っています。

1人でも多くの方が病気や障がいを抱えながらも住み慣れた地域で安心して暮らして頂けるよう、お手伝いして参ります。

健康知得 健康とくコラム

自分の骨密度(骨量)知っていますか？—骨粗しょう症の検査について—

加齢などにより骨密度(骨量)が減少し、骨の内部がスカスカになり、もろく骨折しやすい状態が骨粗しょう症です。骨粗しょう症になっても初期段階では自覚症状が無く「いつの間にか骨折」になってしまうケースが多く見られます。当院ではX線を使用する「骨密度測定装置」を導入しており、骨粗しょう症の診断を正確かつ安全に行う検査を実施しています。



加齢と共に増加する骨粗しょう症に注意！

骨は、毎日古い部分を吸収し、新しい骨を形成する“骨代謝”を繰り返しており、骨のもとになるカルシウムの摂取が不足したり、身体が老化して骨をつくるためのホルモンが不足してくると骨を形成する量よりも骨を吸収する量のほうが多くなります。こうして骨からカルシウムが徐々に減り、スカスカになることで骨粗しょう症を発症します。最初は何の症状もありますが、そのうち腰や背中が痛くなったり、曲がったりしてきます。ひどくなると骨折になり、寝たきりの原因にもなります。

原発性 骨粗しょう症	加齢が主な原因で、女性の場合は50歳前後から女性ホルモンの分泌量が減少することで急激に骨密度が減少します。運動量が少なく、長年の喫煙習慣やアルコールを多く摂取する男性も注意が必要です。
続発性 骨粗しょう症	リウマチ、膠原病、ステロイド薬の長期使用・糖尿病・脂質異常症・慢性肺疾患・慢性腎疾患をお持ちの方が原因として多く挙げられています。

骨密度測定検査の紹介

DEXA(デキサ)法			
検査方法・評価		【検査方法】現在最も正確に骨量を測定することができる方法で、腰の骨と太ももの付け根の骨(大腿骨)に2種類のX線を当て骨成分を測定します。骨の量がもともと少ない人や、減り方が激しい人は早めの検査・治療をすることで骨粗しょう症の進行を防ぐことができます。	
		【評価】若年成人平均値(成人男女の骨が丈夫な人たちの平均値)からどれくらい下がっているのかで状態を評価します。	
検査時間	約10分程度	検査の流れ	初めに医師の診察を受けてから検査を行います(保険診療での検査となります)

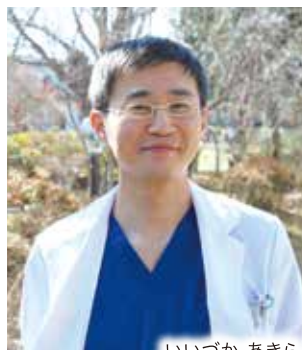
新たに常勤医師が着任しましたのでご紹介します!

専門領域について

地域医療に関心があり、以前は、東日本大震災で被害を受けた宮城県北部の病院で、壮年期から100歳前後の超高齢者まで幅広く診察していました。高齢者を薬に頼りきりにせず、かといって何でも歳のせいにして検査や治療を怠ることのないよう心がけています。地域社会のあり方と健康の関係に興味があり、アメリカの大学院でも勉強してきました。人間関係が豊かで社会参加の活発な地域では、人々がより健康で認知症にもなりにくいと言われています。日々の診療において、患者さんと地域のかかわりにまで目を向けるよう心がけたいと思います。

医療人として大切にしていること

患者さんやご家族との信頼関係を大切にしたいと思います。医師から素つ気なく「検査の数値が悪いから薬を増やします、精密検査をします」と告げられて嬉しい患者さんはいないはずです。治療や検査が必要か不要か、じっくり相談できるためには、信頼関係が不可欠



いいづか あきら
総合診療科医長 飯塚 顕

です。患者さんが「もう歳だし薬や辛い検査はいらない」という率直な思いを気軽にぶつけられるような医師でありたいです。

医師人生で感動したエピソード

病院で働いていると日々大なり小なりの感動があり、とびきりのエピソードを選び出すのはなかなか難しいです。高齢者医療の現場では、患者さんの病気が治って元気になる場面もさることながら、残念ながら最期を遂げられる瞬間を見届ける場面も多いです。患者さんが、大切なご家族に囲まれ、皆から温かい言葉をかけられながら旅立たれる姿には、いつも感動します。

趣味・特技

趣味の欄には、子供の頃に習っていたこともありバイオリンと書くことが多いです。数年前、勤務先の病院で大勢の前で演奏したら余りに酷かったので、恥ずかしさの余り、その後は楽器をケースに閉まったまま封印しています。

地域の皆さんへのメッセージ

患者さんやご家族との対話を大切に、お一人おひとりの立場に立った診察を心がけています。今までの知識や経験を活かし、地域の皆さんがいつまでも安心して暮らしていけるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

□から“食べる・飲み込む”喜びをいつまでも

生活の質を高める「摂食・嚥下機能」の重要性



摂食・嚥下障害看護認定看護師
小澤 朋子さん

私たちは日々、食べることから生きる喜びや楽しさを感じています。年齢を重ねていく中で生じる食べる(摂食)、飲み込む(嚥下)動作がスムーズにできなくなることを「摂食・嚥下障害」と言います。当院ではそのような患者さんを専門的にサポートする認定看護師が活躍しています。

摂食・嚥下障害になっても□から食べることを諦めない

摂食嚥下障害をお持ちの患者さんが嚥下障害の評価後、ゼリーをひと口食べた際に発した「うまいなあ!」の一言と笑顔に感動し、摂食・嚥下障害看護認定看護師を目指しました。□から食べられることで安心感や満足感が満たされ、心や生活を豊かにすることを感じる瞬間がたくさんあります。食べることが難くなった患者さんが、もう一度食べる喜びを感じて頂けるよう、検査結果など根拠をもとに援助方法を考え、提案していきます。



認定看護師を講師派遣しての外部研修会等も行っています。ご希望の方は
お問合せください。

□から食べる楽しみを長く継続するために行うこと

まず口腔ケアをしっかりと行い、口の中を清潔にすることからはじめます。そして安全・安楽に食事ができるよう姿勢を整え、食べた時の五感を刺激するため患者さんの好きな味や物を使用して、スタッフと共に“食べる”訓練に取り組んでいます。

地域の中で力を入れて取り組んでいきたいこと

出前講座として近隣の施設などを訪問し、介護に携わる方たちを対象に研修を行ったり、訪問看護師に同行するなど、連携を図っていきたいと思います。そして初心を忘れず、患者さんにとって「いつも身近な摂食嚥下の看護師」でいたいと思います。

スタッフ教育の様子



【問合せ】
☎026・247・2033 (代表)

取り組みレポート

災害時の教訓を未来に活かす

一小布施こどもほすびず研究会主催ー

自然災害におけるリスク管理を学ぶWEB事例検討会を開催しました



<事例検討テーマ>

医療型重症心身障害児施設におけるリスク管理・台風19号の教訓を含めて



社会福祉法人信濃整肢療護園
稲荷山医療福祉センター
専門小児科
講師/原田 由紀子 医師

2019年10月に発生し甚大な被害をもたらした台風19号。大規模自然災害発生時、患者さんを守るために私たちが取るべき行動と事前の備えの重要性について学ぶWEB事例検討会を2/17に開催し、当院をはじめとする連携医療機関・施設、行政関係者など50名以上が参加しました。



災害当日、勤務先の病院で患者さん・職員の避難誘導をされた経験を持つ稲荷山医療福祉センター 原田医師を講師に迎え、当日の病院の様子や実体験を通して感じた適切な対応、リスク管理のポイントをお話頂き理解を深めました。

ー 特定医療法人 新生病院 ー

ー基本理念ー

わたしたちはキリストの愛と精神にもとづき医療を通して全ての人々に仕えます。

- 1.キリストの教えと行いに学び、「全人医療」を実践します。
- 2.全ての人々に、人や人種による差別なく、小布施という「地域」の中から「世界中」の人々に。
- 3.キリストの精神である「仕える」ことによって「新たな生」が始まります。

ー基本方針ー

- 1.命の尊厳 私たちは命の尊厳を大切に医療に取り組めます。
- 2.連携 私たちは、小布施町を中心とした「地域」の中で、医療・福祉・保健・介護・行政を担う各機関との連携を通して、命の尊厳と質を患者さんとともに追求できる医療体制の構築に取り組めます。
- 3.人財の育成 私たちは、業務の遂行を通して、社会に貢献することを喜びとする人財の育成に努めます。
- 4.健全経営体質 私たちは、良質な医療を安定・継続して提供できるよう、健全な経営の構築に努めます。

ー 特定非営利活動法人 パウル会 ー

ー基本理念ー

「奉仕」「感謝」「信頼」

わたしたちは、ミスパウルを象徴とするカナダミッシェンの志に習い、奉仕の精神をもって地域福祉に貢献します。

わたしたちは、命の大切さを尊び、愛情と感謝の心を持ち続けます。

わたしたちは、自らの仕事に誇りを持ち、全ての人に誠実で丁寧に向き合い、信頼関係を深めます。